

最近はじめたこと

独特の色気と、年齢を感じさせない愛嬌のある話芸で、落語通はもちろん、女性や若い落語ファンにも大人気の桂春之輔さん。舞台上に上がるだけで場の空気を換え、希有な存在感を放つ落語家の一人です。上方落語協会副会長の重責も担う大ベテランは、70歳となる来年、人生で初めての「襲名」を迎えます。しかも、受け継ぐのは上方落語界きっての大名跡である「桂春團治」。古希で迎える大きな変化を前に、今の心境を伺いました。

70歳にして、一からのスタートが待っている

今年1月、師匠である三代目桂春團治の一周忌の折、ご家族より、師匠の遺言として襲名について伝えられました。正直に言いますと、それから今日まで、うれしいと思っただことはいつへんもありません。もちろんお酒を飲む場では、みなさんが「おめでとう」「祝杯や！」とシャンパンを開けたりしてくれませんが、僕はちつともうれしくありません。

喜んでるのは店の経営者だけですね(笑)。今でも心から喜ぶということとは全くなくて、むしろ使命感に強くかられています。

四代目桂春團治襲名と聞いて、知らん人まで「おめでとう」と言うてくれる。これがゴールならめでたいでっせ。でも、むしろスタートでしょう。70歳にして、一からのスタートになる。だから喜んでられへん。中には「そんなこと言わんと、とりあえず喜べ」と言う人もいらっしやいますけど、とにかく喜んでいく場合ではないんです。

初代・二代・三代を意識しつつ自分なりの春團治を創る

初代・二代目・三代目の落語を引き継ぐということは、たやすいことではありません。芸の形やネタも含めて3人とはまた違う落語を創りあげていきたいと思っています。

ちよつと安心しているのは、三代目は初代・二代目とは正反対の生き方と芸風であったこと。それで自問自答した結果、「初代・二代目・三代目に似なくていい」と思えるようになりました。自分なりの春團治というものを創り上げられたらいい。師匠から「こんなふうな噺家になれ」というのは一切ありませんでしたし、むしろ「似る必要はない」と言っていました。そんなことを思い出しながら、無理やり納得に持つていつているんですかね。

初代・二代目・三代目は人情噺をやらなかつたので、僕はそっちの方に力を入れようかと思っています。その中には師匠から「これはお前のものになるで」と言われたネタもあるんですよ。それを心の支えというか、励みにして、師匠が言ってくれたように、自分のものになるよう大事にしたいですね。



【出演情報】数ある落語会の中からどれに行けばいいか迷ったら、まずは落語の定席(じょうせき=常設寄席)である天満天神繁昌亭がある。4月の昼席は上方落語協会創立60周年記念月間として、協会員が日替わりで総出演。春之輔さんの出演は4月1日(土)※口上のみ。そして4月6日(木)、30日(日)。また、夜席は4月16日(日)「咲之輔(さきのすけ)らくご会〜噺家生活十周年記念〜」、4月25日(火)「天神寄席4月席(老いを笑えるか)」に出演。

桂春之輔さん 70歳を迎える来年、 四代目 桂春團治を襲名します。



■イラスト:奈路道程

ぜひとも引き継ぎたい。落語以外では墨絵を習いたいなと思っっているんです。というのは、うちの師匠は色紙に必ず絵を描いていたんですよ。それで、色紙だけでもちよつとは芸人らしくしたいなあ。

若手には積極的な声を、それは自分たちの責任

若い噺家には自分から話しかけて、気がついたことは伝えるようにしています。若手はとにかく褒めてあげる。これが大事で、その上で自分の思ったことを伝える。年寄りのなセンスで、つい「近頃の若いもんは」と思ってしまうがちになりますけど、それはいけない。今日びの若いもんは……とボヤいているだけではなしに、具体的に伝える。それは自分たちの世代の責任やと思っています。

そうすることで「自分もボヤボヤしてられない」という気持ちになれるし、同時に自分のためでも

あるんですよ。師匠もよく言っていたように、「稽古はその人のためではなく、自分のためになる」と。大した教えやと思います。

次の春團治に繋ぐ精神が、上方落語界の財産になる

僕は四代目を指名されたわけですが、この名前は師匠が与えてくれたもの。次は僕がそれを与える番です。そこにこだわりたい。これからは次の春團治を強く意識したいです。もしかすると責任逃れのように聞こえるかもしれませんが、僕もそんなに長い間やれるわけやない。次の春團治に繋ぎたいという気持ちで、与えられた名前をぜひとも五代目に引き継ぎたいと思っています。それは兄弟弟子にはもちろん、師匠にとつての孫弟子に、あるいは上方の噺家全員に言いたいことかもしれない。とにかく春團治という名前を残していきたい。そのために全力を注ぐことが、上方落語界に貢献することになると信じています。



桂春之輔/かつら・はるのすけ ●1948年7月20日大阪府寝屋川市生まれ。65年に三代目桂春團治入門して春章(はるあき)、68年春之助、93年に春之輔に。2018年春、四代目桂春團治を襲名することが決まっている。上方落語協会副会長として、天満天神繁昌亭の運営や若手噺家の育成にも尽力。毎月25日に繁昌亭夜席で行われる「天神寄席」では、初心者にもわかりやすいテーマの落語会を企画。また、大阪市立大学と相愛大学で客員教授を務め、落語ファンの裾野の拡大に積極的に取り組んでいる。